



わくわく園だより No.27
R5年10月20日(金) 文責: 牧野



“いのち”を伝える

秋田市大森山動物園長 小松 守 氏

長い間、動物園で動物の子育てを見続け、“いのち”を伝えることについて考えてきました。動物たちは自然が創りあげた巧妙な子育ての仕方を見失うことなく、淡々と命をつないでいきます。お乳は、子の腹を満たすだけでなく、親子の触れ合いをつくり温もりで心にも栄養を与えるのです。たっぷり愛情を受け、子は生きる力を身につけ成長します。やがて親になり自分が経験したことを子に伝える。実に単純ですが、そこに大事なものがあります。“Education”の語源には「お乳で育てる」とあります。“いのち”の教育、その始まりは親子の触れ合いです。“いのち”は命からしか伝わらないのです。



動物愛護と平和

旭山動物園になぜ多くの人々が訪れるのか？

ウクライナや中東で争いが起き、多くの市民が犠牲になっています。小さい子に反戦・平和の話をして理解できません。しかし、幼児期から動物に触れ、愛護する経験は、人の生命を尊重し、友愛と平和の情操を高揚する上で極めて大切なことです。それで小学校低学年の生活科に小動物を飼う学習があります。そのねらいは、生き物をただ眺めて観察するだけでなく、手で触ってみたり、抱いたり、水や餌をやったりという活動から、生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにするものです。生き物との接触が心の安定に良いことはよく知られています。優しい心はこんな活動から、自然に生まれてくるものです。



幼児期の指先トレーニングは脳の発達に効果がある

・・・指先を鍛えるとどんな効果があるのか？・・・



【手先が器用になる】 遊びの中でたくさん指先を使うことで、手先が器用になってきます。子どもにとって「器用」とは、日常生活に必要な鉛筆の持ち方やボタンの留め方、箸の使い方などの動作が上手にできることです。

この動作に苦手意識があると、自分でしなくなり、イライラしてやったりするようになります。指先トレーニングで苦手意識を減らし、指先の動作をスムーズにできるようにすることが大切です。

指先に力がつくと「書く、つまむ」などの動作が上手にできるようになります。小学校では、字を書くようになります。思い通りに字が書けなかったり、すぐに疲れてしまったりすると、勉強が苦手になってしまいます。

【脳が刺激される】 指先は、「第2の脳」といわれるほど脳と深く関係しています。指先には脳とつながる神経が多く存在するため、指を動かすことで脳が刺激され、思考力、言語力など、さまざまな能力が鍛えられます。指先を使うブロックや積み木などのおもちゃで遊ぶことは、脳を鍛えることになります。

晴れた日は外で遊ぶ、雨の日は、家の中でテレビゲームばかりしないで、指先を使うブロックや積み木で遊ぶことをすすめます。

*天才棋士の藤井聡太八冠も小さいころブロックでよく遊んでいたそうです。

10月23日(月)から 10月27日(金)までの予定

- 23日(月) 1歳児「図書の日」就学時担当者会議(職員)
- 24日(火) 「お弁当の日」 2歳児参観日
- 25日(水) 1歳児参観日 職員会議(職員)
- 26日(木) 0歳児参観日 支援センターとの交流(2歳児)
- 27日(金) 米太郎倶楽部との交流(5歳児) 訓高生職場見学 ケース会議
父母研修会「こどもの『聞く力』を育てるために」



花の季節終わる

玄関のプランターの花も元気がなくなりました。あまり寒くならないうちにと思い片付けました。さみしいです。

(講師: 美幌療育病院作業療法士 三和 彩 氏)

めっきり寒くなっていました。インフルエンザも流行ってきています。温かくして過ごしましょう!